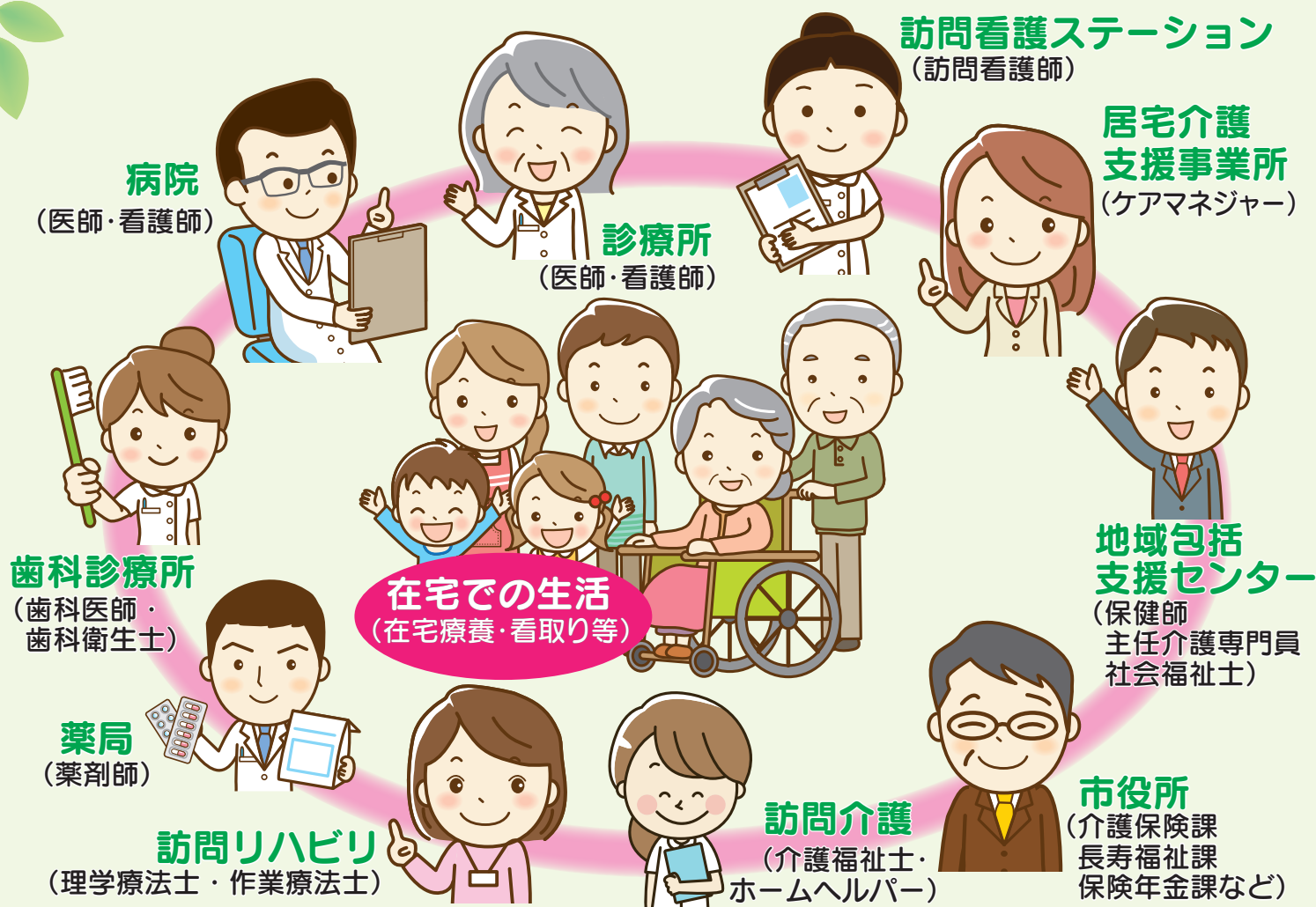


ご存知ですか？ 在宅医療

在宅医療・介護連携推進事業は、高齢になっても、障害があっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域の医療と介護の関係機関が連携して、在宅医療や介護を提供する取り組みです。

●在宅療養を支える多職種連携チーム



医療の進歩やチームケアの充実により、多くの場合、最期まで自宅で過ごせます。自宅という人も、病院や介護施設が安心という人も、どちらか一方が正解ということではありません。ご家族などと話し合いながら、自分の望む形をイメージしましょう。

在宅療養は一人ひとり違います。(病気、介護度、経済的なこと…)まずはご相談ください。

在宅医療相談窓口 ～在宅医療・介護について、お気軽にご相談ください～

●市地域包括支援センター ☎34-0324 ●市地域包括支援センター南分室 ☎54-6477
結城市役所1階長寿福祉課内(窓口⑧) 青嵐荘特別養護老人ホーム1階

出前講座をご利用ください 皆さんからのご要望があれば、在宅療養についての出前講座を開催します。自治会、老人会、PTAなどの集会の際に、ぜひご活用ください。

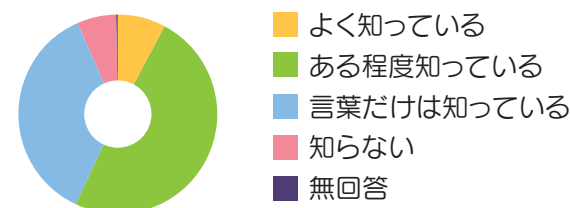
・介護連携推進事業

在宅医療に関するアンケート調査の結果

現在、結城市が取り組んでいる「在宅医療・介護連携推進事業」について、平成30年2月に実施した「在宅医療に関するアンケート調査」の結果をお知らせします。

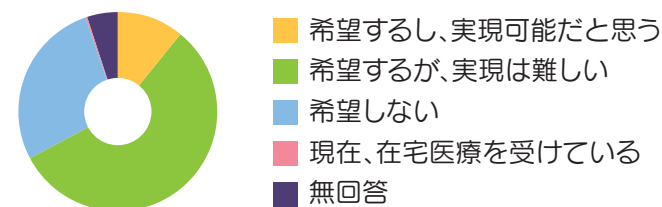
■対象者 結城市在住の20歳以上の方4,000人(無作為抽出) ■回収率 40.6%

Q 「在宅医療」について知っていますか？



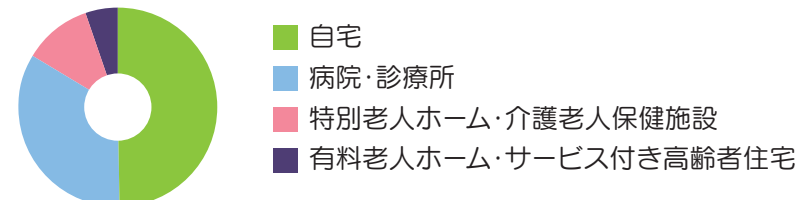
57%の市民が、「在宅医療」について「よく知っている」「ある程度知っている」と回答しています。平成27年12月のアンケートでは、50%でした。

Q 「在宅医療」を希望しますか？



市民の7割が在宅医療を希望していますが、在宅医療を希望する市民のうち、約8割が実現は難しいと感じています。

Q 最期を迎える場として、どこを希望しますか？



市民の約半数が、最期を迎える場所として、自宅を希望しています。

●自由記載

30代男性 詳しい説明や制度について、広報紙などで定期的に紹介してほしい。

40代女性 自宅で過ごしたいと思う人は多いと思うが、情報を得ることができず在宅療養などのサービスを知らない人が多い。情報をもっと発信してほしいし、誰でもわかるようにする方法を考えてほしい。

70代男性 両親が在宅医療を利用した。体制がしっかりしており、安心していられた。両親とも長らく生活したところで看取ることができ、在宅医療がますます整備されることを切に希望する。

各年代ともに「在宅医療についての情報がほしい」との意見が多くありました。

また、実際に在宅療養を利用された方は、肯定的な意見でした。

これを受け、人生の最期を迎える時、その場所の選択肢のひとつとして、「自宅」を希望することができるよう、在宅医療に関する情報発信を継続していくとともに、希望すれば誰もが安心して在宅医療を受けられるよう、関係者と連携しながら体制づくりを今後も進めていきます。